連載29

西日本鉄道・甘木線
［宮の陣～甘木］

福岡県の大動脈とも言える西鉄天神大牟田線。
その宮の陣駅から甘木駅まで計12駅、17.9kmを結ぶ甘木線。
高層ビルやマンションとも無縁な景色を単線列車は走る。

創立１００周年で賑わう西日本鉄道。正確には、その前身となる九州電軌鉄道が設立されて、12月に満１００年を数える。

県を南北に結ぶ天神大牟田線と、天神大牟田線の二日市駅で乗り換える太宰府線、今回紹介する甘木線、そして、福岡市東区の貝塚～新宮間を結ぶ貝塚線が、西鉄の大小合わせた４路線。

ふだんお世話になっている西鉄の創立１００周年記念乗車券が発売されたとあって、駅員さんのいる窓口で購入。主要６駅から各々１５０円区間の切り取り式乗車券がついている。どうやらこれは「記念品」として大切にしまっておくべき乗車券のようだ。再度、券売機で切符を購入する。

福岡天神駅から、いざ乗車。

気の向くままにぶらり沿線散策。

西鉄甘木線で北野町へ

甘木線に乗るには急行電車が便利。久留米駅の一つ手前、宮の陣駅で乗り換える。ブルーグリーンに赤いラインの２両編成の列車が、ほとんどの時間帯は1時間に2本、単線を各駅停車で走る。

甘木線に乗るのは初めての経験。ひと昔と少し前、宮の陣に住んでいた頃、ガタンゴトンと走る甘木線の列車を家の窓から眺め「いつか乗ってみよう」と思っていた。実現できぬまま10数年。クレヨン画のような夢を叶える小旅行。

最初の目的地は秋晴れの空の下、満開に咲くコスモス。宮の陣駅から4つ目の北野駅で降り、案内標識を頼りに少し歩くと、左手に**北野天満宮**が見えてくる。京都の北野天満宮、太宰府天満宮に祀られる菅原道真公が、京から太宰府へ下る際に、この地で襲われそうになったところを河童が助けたというような伝説も残る。紅い橋を渡り、紅い楼門をくぐって参拝すると、気分も晴れ晴れ。

天神さまを拝し、試飲と散策

天満宮をあとに、正面の道を真っすぐに歩いていくと、土蔵造りの白い建物が右手に見えてくる。「庭の鶯」で知られる**山口酒造**では、試飲をいただかないわけにはいきますまい。筑後川の伏流水を使って仕込む清酒「庭のうぐいす」の生酒や、粕取り焼酎の梅酒「うぐいすどまり」など、舌に転がす。「あぁ、旅の途中でなかったら」と言いながら、近くにもう一軒の蔵元が……。

気の向くまま、足の向くままに、寄り道するのもまた旅の醍醐味である。**コスモス街道**沿いに見える千年乃松酒造では、超特選酒「北野夢のコスモス街道」、生酒「北野コスモス街道」も販売されていた。

小瓶の清酒とおでんを求め、軒を借りて昼食。先ほど通りで入手した北野名物の「かます寿司」を頬張り、お天道様の高いうちからクイッ。

かます寿司はその昔、米を入れる袋の叺（かます）と魚のかますをかけて考案された。塩と酢でしめた魚のかますにシャリをいっぱいに詰め、五穀豊穣を祈願する「北野おくんち」の定番料理。先人の智恵に感謝しつつ、程よく生感が残る特大銀かますの姿寿司は一切れ、もう一切れと姿を決してゆく。

おなかを満たし、北野のメインと考えたコスモ

山口酒造。
天保3年創業の蔵元。母屋で購入可能

北野天満宮。
平安時代に道真公の御分霊が祀られた

文・写真　松延艶子（ライター）
text and photographs by Tsuyako MATSUNOBU
福岡市在住。「人」と「食」を中心に原稿を書き続けている。豆・豆料理研究家１年生。

ス街道へ再び。両側にコスモスの咲く陣屋川沿いの道を歩く。家族連れ、老夫婦、元気なおばさまチーム、皆いずれもスニーカー履き。行けども行けども、コスモスの咲くハゼ並木が続く。この時期だけかもしれないが、人の姿も途切れない。

コスモス街道の始まりは今から36年をさかのぼる。愛娘誕生を喜び「コスモスのように可憐な娘に」との願いを込めて、一人の住民がコスモスを育てたことに端を発する。およそ10ｍのコスモスが今日では、地域ボランティアも加わって総延長４㎞のコスモス街道と相成った。この賑わいも、コスモスがもたらしたもの。秋の桜は観光客の心を潤し、北野町に福を運んでくる。

隠れキリシタンの里に立つ煉瓦色の教会

親水公園・コスモスパーク北野から駅までの約２㎞を折り返し歩き、次なる目的地は大堰（おおぜき）駅。95年前にできた煉瓦造りの教会が、美しいままに現存するという。

先ほど天神さまに手を合わせたのに、今度は教会？　神仏混合は日本人が得意とするところ。それに、教会建築家として知られる鉄川与助氏の設計施工による教会堂の中でも、大きな建築物の一つだとか。駅から徒歩30分の距離は、タクシー代を払っても訪れてみたい場所だった。

総高約22・５ｍの塔は、遠くからでもすぐに見つかる。周囲は田んぼと民家。刈り取った稲を脱穀する埃が舞うような界隈に、異質な景色を呈す**今村カトリック教会**がそびえ立つ。

車窓に広がるニッポンの風景。

日射し眩しい外界から教会内に入ると一変、静寂と冷んやりした空気に包まれる。整然と並ぶ椅子に腰かけ、正面の大天使ミカエルを見つめていると、どこからか聖歌までも聞こえてきそう。赤・青・緑・黄・白、フランスから取り寄せたというステンドグラス越しに、やわらかな光が差し込む。高い天井、磨かれた床。クリスチャンならずとも、聖なる静けさに心の波が消えていく。

西鉄さん、ありがとう

結びは終着駅と決めていた。大堰駅での長い待ち時間に、親切な女性の駅員さんが、待たせることをすまなさそうに声をかけてくれた。

電車には地元に帰る人に混じって、観光客らしき外国人グループも乗っている。車窓に広がるこの風景も日本だと、どうぞ憶えていてほしい。

２駅先の終点・甘木駅で下車すると、徒歩およそ10分で「卑弥呼の湯」に到着。天然温泉かけ流しの湯は、宮崎康平・和子夫妻を描いた映画「まぼろしの邪馬台国」の公開を前に、気になっていたスポットである。夕方明るいうちから湯に浸かり、手足を存分に伸ばし、一日を振り返る。お日さまの下、ゆるりとした贅沢な時間。こんなに歩いたのは、いつ以来だろう？

甘木線沿線には、今も昭和が随所に残る。路線沿いは何でもない日に、構えずとも行ける場所。そこに暮らす人々を街へと運び、時に旅人を連れてくる。これまでも、これからも。

西鉄の１００年に「ありがとう」。

今村カトリック教会。
正面は締まっていても、建物左側の入口から中へ。

陣屋川沿いに４㎞続く
コスモス街道。